

1122252c 向井太一

会計学入門 期末レポート

担当企業 東邦チタニウム株式会社

東邦チタニウムのCSRレポートを読み学生として複数の観点からこれを考察する。まず、この会社が目指す姿について。レポートの冒頭に経営理念だけでなく経営理念の解説が書かれており、進歩の途中にある金属チタンとその技術を利用した触媒・化学品分野や新規開発に関する技術の継続的な技術革新を行うことと、企業が経済活動を行う際その基盤となる環境や社会が崩れてしまつては経済社会の持続はあり得ないという考えのもと経済、環境及び社会的な各側面から持続可能な地球社会の発展に貢献することが目指す将来であると分かりやすく明記されている。具体的なESG経営への取り組みやカーボンニュートラルへの挑戦などについても詳しく書かれている。

次にこの会社の競争優位性について、チタンは強度や耐食性に優れており軽量性も兼ね備えているため例えば航空機関連商品においては重要な役割を果たしている。製造工程が複雑なチタンの供給を

行える会社はそう多くはないためこの時点で東邦チタニウムに競争優位性があるということもできるが、競合他社にない自社だけの強みをもっと強調することで自社の企業価値や競争優位性をアピールしてもいいのではないかと私は感じた。競争優位性の持続性については今行っている事業を継続するために環境問題やリスクマネジメントについて考え取り組んでいることが明確に書かれているためその持続性を理解することができた。

報告書の改善余地に関して、自分が企業のステークホルダーである「将来世代」として、この会社に就職して自身の人的資本の価値向上(=スキルの向上)を達成できると感じる事があまりできなかった。優秀な人材の採用や社員の能力開発に努めていることや働きやすい職場づくりに取り組んでいることが述べられているが、特に自社にとって採用したい優秀な人材とはどのような人材か、社員の能力開発について具体的にどのようなことを行っているのかをより具体的に書くことで実際にこれから自社で働くことを希望するか検討している人にも鮮明なイメージを描けるようにすべきではないかと思った。